



# AA日本ニューズレター



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377

〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F FAX 03-3590-5419


 〒100-91  
 東京都中央郵便局  
 私書箱 916

## No.59

## 地方における広報活動の一考察 —九州沖縄地域セントラルオフィス

だれもいなくなったセントラルオフィスに一人、混乱と焦燥、後悔と自己嫌悪が入り乱れるなかでこの原稿と四つに組んでいます。

AAガイドライン《広報》によると、「AAの広報活動も、AAグループや他のサービス活動と同様に、その最終的はただひとつ、まだ苦しんでいるアルコールクにメッセージ運ぶことである。ただし広報の場合、直接というよりむしろ間接的にアルコールクに手を差し伸べられるよう努めていると言える。それは二つの方法による。

- (1) AAのプログラムを一般の人々に知らせる。
- (2) 今飲んでいるアルコールクと仕事上でかかわっている第三者に知らせる。
- (3) AAの仲間によく情報を伝えることで、メンバーやグループがもっと効果的にメッセージを運べるようにする。

理想とすれば、を包括した記事になればよいのですが、それは無理というもの。九州地域には広報委員会というようなサービス委員会はありません。セントラルオフィスがその役割をカバーしていることも事実ですが、各地区での広報活動は、各個人やグループがイニシアティブを取っているのが現状だろうと思います。AAのプログラムを一般の人に知らせるために、どのように九州の仲間たちは活動し、どのように仕事上でアルコールクと関わる「第三者」に伝えたのか、ほんの一部しか語ることはできませんが、まだこのようなメッセージを運んでいないグループや地区の参考になればと願っています。

### 《行政回り》

表現として適切ではないかもしれませんが、九州では、精神病院へのメッセージを除けば、一般の人びとにお知らせする広報活動よりも、関係機関や専門家にAAを知らせる方法を優先的に採用したといえるでしょう。というよりも、当初はAAを一般の人に伝える方法が見つからなかったのかもしれない

ん。草創期のメンバーが手記に「鹿児島のAAの中に『行政回り』という言葉がある。1年が経過したころ、施設の職員として長崎に赴任してきたS氏がセミナー開催案内のために九州各地の関係者をまわって来鹿のおり、一緒に数カ所の病院と保健センター、保健所、福祉事務所等を訪問したことに由来する。その後、鹿児島のAAが催す各種イベントの時にはメンバーが手分けして各機関を訪門するという、その伝統は現存も引き継がれている。当初、この関係者へのメッセージの中で感慨深いのは、開口一番『AA? それは何ですか?』という問いかけだった。今、このような言葉はほとんど聞かれなくなったことを思うとき、関係者の皆様のご理解とご協力に感謝せずにいられない」と残している。(活動範囲に差はあるが、各地区とも現在も継続している)

「AAをもっと一般の人にも知ってもらいたい」という願いから、オープンミーティングを開くのはごく自然な流れだと思います。とにかく来てもらいたい、聞いてもらいたい、そして回復途上の自分たちの姿をみてもらいたい。それにはどうすればよいらうかとアル中たちは考えました。関係機関には案内を直接手渡すことで協力を願い、一般の人にはマスメディアの利用を思いついたわけです。マスメディアと接触する方法が分からず悪戦苦闘することになりますが、最初は一方的に案内を送り、相手の反応をうかがうといった消極的なものでした。

### 《マスメディアへのメッセージ活動》

オープンミーティングにしるステップセミナーのような催しにしる、当初は精神病院の患者とその家族を除けば、一般の参加者はほとんどなく、むしろ病院、保健所、福祉事務所等の関係者がおおかたでした。これは「行政回り」の効果であり、一般の人に伝える方法が見つからなかった結果です。

マスメディアの中では何が一番早かったか正確ではありませんが、テレビよりラジオだったように思





# 《オープン》と《クローズド》

## J S Oでのマスメディアへの対応

上記の岩下さんの記事にありましたように、一般のかたがたからAAについて問い合わせをいただいた場合、J S Oでは「オープン・ミーティング」を紹介し、直接その日でAAに触れていただくようお願いしています。AAで「オープン・ミーティング」が開かれるようになったくんだり、「AA成年に達する」の205～206ページを読んでみてください。

さて、この「一般のかたがた」がどういう人達かという限定はありません。したがってJ S Oではマスコミのかたにも同じように「オープン・ミーティング」を紹介しています。ミーティングであれ、オープン・スピーチやステップセミナーといったイベントであれ、地域や地区を問わず、「オープン」とリストされたものはすべて紹介しています。ただし、AAのアノニシティについては十分説明をし、「オープン・ミーティング」とはAAのミーティングがどういうものかを知っていただくために参加を呼びかけているものであって、直接の取材はできないこと、したがって、メンバーの話をメモに取ったり、テープに入れることはできないこともお話ししています。

その上で、マスコミのかたがあらためてAAを取材したいという場合には、マスコミに出ることを納得して引き受けてくれた何人かのメンバーが「モデル・ミーティング」を行ったり、個人の回復の経験をお話ししています。ただし、正面からの顔の写真と姓名を出すことは絶対にご遠慮いただき、メンバーのプライバシーは必ず守っていただいています。

また、これは本来正しい方法なのかどうか分からないのですが、アルコール以外のかたがオープン・ミーティングに出る場合、会場でどういう立



ち場で参加しているのか一言伝えてほしいとお願いしています。

その上でマスコミのかたがオープン・ミーティングに行って、その身分を明かしたときに、岩下さんも書かれているように、AAメンバーから断られたり、ミーティング場から出ていただくよう言われたというケースが結構あるようです。

アルコールをやめたいという願望をもつ人ならだれでもAAのメンバーになれ、メンバーの一人一人が大事に守られ、理解と共感に包まれる「クローズド・ミーティング」では、アルコールだけに共通した経験が分かち合われ、酒をどうにかやめたいと、やっとの思いで足を運んだ人も安心できる場所であります。

一方オープン・ミーティングは、一般の人達、つまり家族、友人、関係機関、アルコール以外の問題をもつ人、そしてマスコミの人も、参加してかまわない場所です。もちろん予約も申し込みもなく。

AAの歴史の中でも、1935年には5人の回復者しかいなかったのに、それから7年後には8千人の回復者の数を数えるに至ったのは、「ブレイン・ディーラー」や「サタデイ・イブニング・ポスト」といった紙面で記事に取り上げられたことによる部分がおおいにあります。

「広報活動」か「AAにつながったメンバーを守ることをとるか」「オープン」か「クローズド」か。どちらを選択してミーティングを行うのかは各グループが決定することです(伝統4)。その上で「オープン」を選択したなら、一般の人達が参加できるということを、「クローズド」を選択したならアルコールの問題をもつ人だけが参加できる場であるということ、もう一度みんなで確認してみませんか。

